

宗教界で活躍した人

三好照嘉

(みよし しょうか)

明治19年〜昭和37年(1886)〜1962)

宗吾霊堂(東勝寺)住職
公津医療助産組合をつくる

佐倉市小竹おだけに生まれる。7歳で栄町須賀すかの宝寿院に預けられた。成田中学校(現成田高校)へ入学、須賀から片道15キロの道のりを徒歩で通った。17歳で三好家の養子となる。中学卒業後、国学院大学へ入学。大学卒業後さらに豊山大学(現大正大学)で2年間修行を積み、酒々井町の大仏頂寺の住職となる。大正12年、宗吾霊堂の住職田中照心が死去し、その後継者として37歳で住職となった。



宗吾医療助産組合趣意書(昭和9年)

昭和初期の不況の中、貧しさゆえ医療が受けられず病人が亡くなることに心を痛めた照嘉は、「公津医療助産組合」の設立に奔走。昭和7年、医療互助事業が開始された。同13年、国民健康保険法が成立したが、そのモデルとなったのは同組合であった。

宗教界で活躍した人

飯田栄次郎

(いいた えいじろう)

嘉永4年〜大正13年(1851)〜1924)

成田に初めての
キリスト教会をつくる

東京都に生まれる。22歳のとき、下福田村の飯田四郎兵衛家に入婿した。明治10年に宣教師のウイリアム・ライトから洗礼を受けた栄次郎は、夜学塾を設けて漢文や歴史を教授するとともにキリスト教の伝道を行ったが、当時なかなか人々には受け入れられなかった。



しかし、熱心な伝道により、次第に信者が集まり、同20年9月8日、自宅の隠居部屋を仮会堂にして、日本聖公会福田教会(県下最古のキリスト教会)が発足した。受洗者は36人だった。同30年には信徒数113人と大教会になった。その後松崎にも教会が設立され、県内にも伝道の道が開かれるなど、キリスト教伝道の中心的役割を果たした。

勝海舟が書いた新約聖書の一節



大正8年の聖公会福田教会

御料牧場ゆかりの人

アプ・ジョーンズ

天保2年(?)〜(1831)??

明治政府に雇用された外国人
下総牧羊場を経営する

アメリカ出身の牧羊家で、明治政府に殖産興業政策のために雇用された。明治5年に岩倉遣米欧使節一行がアメリカを訪問した時に、来日の交渉を持ち、使節の帰国とともに来日したと考えられる。



下総御料牧場の羊の放牧

明治8年三里塚に創設された下総牧羊場の綿羊飼育の最高責任者として、また積極的な経営とその知識をもって、日本の近代綿羊業の基礎をつくり上げた。名前を如温士ジョーンズ、如温寿と漢字に当てはめるほどの親戚であった。また成田山の当時の住職である原口照輪と



明治10年原口照輪に贈った書

親しく外国人として初めてのアメリカ製のじゅうたんを奉納している。

御料牧場ゆかりの人

新山莊輔

(にいやま そうすけ)

安政3年〜昭和5年(1856〜1930)

下総御料牧場長として
日本の畜産と三里塚の開発に貢献

山口県大井村に生まれる。明治12年勸業局に入り、下総種畜場の勤務となる。同21年第5代目の御料牧場長となり、大正11年までの37年間、日本の



の官民両面における畜産、特に産馬事業の発展に貢献した。この間欧州出張の際にドイツ語が堪能であったことから伊藤博文を助け、明治憲法制定に一役を担った。

また、三里塚の地域開発に尽力し、千葉県官鉄道敷地に20町歩に及び用地の無償貸付けに協力した。そして新山莊輔場長授字令制度を設立し、地域の児童のため毎年賞を授けることを昭和20年まで続けた。大正13年には、三里塚公園内に銅像が建てられたが、戦争中に供出され、現在は台座だけが残っている。



新山牧場長銅像の除幕式



馬上の新山莊輔

政治家として活躍した人

柏原文太郎

(かしわはら ぶんたろう)

明治2年〜昭和11年(1869〜1936)

日中親善と東南アジア民族の
自主独立に生涯をかけた政治家

成田市寺台に生まれる。東京専門学校(現早稲田大学)を卒業する。明治32年、近衛篤磨・犬養毅・大隈重信らと上海に東亜同文書院を開設し、



日中両国の子弟の教育にあたった。

その後、康有為らの政治活動を助け、また、ベトナム独立の志士潘是漢ら(パンシカン)を援助するなど、東南アジア民族の独立に尽力した。明治45年千葉県より衆議院議員選挙に立候補、4期務め、日中関係を中心とする経済問題などで活躍をした。



康有為からの書状

また、東京の目黒中学校を設立するなど、学校経営にも手腕を發揮した。妻の安喜子は、大日本婦人会成田支部長・成田市婦人会長として活躍した。

政治家として活躍した人

三橋金太郎

(みつはし きんたろう)

明治3年〜昭和21年(1870〜1946)

成田町長 成田の将来を考えた
生粋の成田人

成田市田町に生まれる。生家は門前の東屋。幼名を富五郎といい、後に金太郎と改めた。土室の北総英漢塾塾に学び、義塾が成田に移り成田英漢塾塾となる。第一回の卒業生となった。また、石川照勲に尋常中学校設置の必要性を説き、成田中学校(県下で二番目の中学校・現成田高校)設立に尽くした。



昭和13年から21年まで、成田町長として町政に携わった。同13年の成田山開基二千年祭には、自ら「新勝寺と成田のために物乞いをするのは恥ではない」と連日東京中を歩いたという。また、奥田道路の建設事業(正月の門前の交通混雑を緩和するため、田町 現在の市役所下京成駅前)に出る迂回道路のことに手腕を發揮した。



空前の盛況だった開基二千年祭